

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号					
施設名	敬愛高倉保育園				
施設所在地	八王子市高倉町46-1				
法人名	社会福祉法人 敬愛学園				
活動期間	令和	6	年	4	月 から 令和 7 年 3 月
活動内容の公表	✓	保育活動をドキュメンテーションで作成し園内に掲示、法人内での研修			
		公表したホームページ等のURL		なし	

2. 活動報告（注1）

番号	2											
テーマ	自然（昆虫館＆カブトムシ、クワガタ飼育）											
実施回数・期間 (注2)	令和6年4月から令和7年3月 ※昆虫飼育は現在も継続中											
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス		1歳児クラス		2歳児クラス		3歳児クラス		4歳児クラス		5歳児クラス	
		人		人		人	20	人	20	人	21	人
活動内容 (注3)	カブトムシの幼虫の飼育をキッカケに虫への興味・関心が高まった。「虫かごと狭いから広い部屋で飼育したい。」とのお子さまの声、自然の中で生きている昆虫の姿を見てほしいという保育者の願いから園内の展示室に昆虫を放し飼いできるスペースを作り飼育・観察活動を楽しんだ。											
活動における チェックリスト	✓	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。										
		※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか ・保育者が夢中になって観察、飼育活動を行う姿をみせるようにした。「手伝いたい」というお子さまの心を育み少しずつ、活動に参加するお子さまが増えていった。 ・3歳児クラスが主となり活動を進めていたが、朝夕の合同保育、日中の異年齢交流の際に4.5歳児クラスのお子さまと一緒に活動を楽しめるようにした。										
	✓	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。										
		※記録をどのように行ったか 活動の様子をスマホを用いて写真にて記録した。また、ドキュメンテーションを作成し保護者にも見て頂けるように掲示した。また、夜間の昆虫館をビデオカメラで撮影しお子さまが見られない時間の様子を見れるようにした。										
	✓	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。										
		※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 昆虫館の中では保育者から声を掛けずに一緒に昆虫の動きなどを観察するように心掛けた。 また、昆虫館が魅力的な場所になるように昆虫だけでなく金魚やメダカ、ザリガニなど水辺の生き物を観察できるようなスペースにした。										
	✓	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。										
		※振り返りの実施方法 休息の時間に担任間・昆虫館を担当している職員間で話し合い、他にどんな環境を用意するか話し合った。その際に、遊び方、お子さまの気付きを共有した。										
	✓	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。										
		※教諭や保護者等への共有方法 電話や研修で同席した際に法人内で昆虫館の活用方法を話し合った。保護者へはドキュメンテーションを用いて伝えた。										
	✓	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。										
		※継続的な実施のための工夫 昆虫館を展示室のスペースだけでなくお部屋にも観察できるように虫かごと水槽などで生き物が身近にいるような環境を整えた。										

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	敬愛高倉保育園
施設所在地	八王子市高倉町46-1
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然、生き物への興味関心（昆虫館）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
法人内で運動、造形、食育、自然事象など様々な保育を探究するチームがある。生き物への興味関心を高める為、自然環境に近い形で観察を楽しめるように昆虫館を展示室（保育園園内）に環境を整えた為テーマに設定した。

2. 活動スケジュール

- ・ 令和6年4月1日～現在も継続中
- ・ 令和7年7月29日に昆虫館が完成した。（7/29～R7.3.31）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- （活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
- ・ 水槽や虫かごを各保育室に準備
 - ・ ペットボトルを使用しカブトムシの幼虫が幼虫→蛹→成虫と成長の様子を見られるようにした。
 - ・ 昆虫館を作成し、自然に生きている様子を見られるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ 幼虫→蛹→成虫と変化する様子を観察しやすくする為に幼虫1匹に対しペットボトル1本ずつ準備した。
- ・ 各保育室に水槽、虫かごを設置し生き物を身近に感じられるようにした。
- ・ 昆虫館を設置し自然に近い形で観察ができるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

幼虫→蛹→成虫と形態が変化していく家庭を楽しんでいた。カブトムシとクワガタの幼虫の見分け方をお子さまと一緒に調べ理解が深まった。飼育環境が狭いかも・・・とお子さまのアイデアから昆虫館の発想が生まれた。また、保育園が開所していない時間の昆虫館の様子を動画で記録し子どもたちと一緒に確認した。日中よりも夜間の方が飛び回っていることに気付いた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・ 周辺地域にない環境を園内に設置することが出来た・お子さまの興味関心に沿った活動となり、繋がりのある保育に少しずつなっていく(飼育活動が運動会へと繋がった)・虫好き、虫怖い、苦手それぞれあっていいけれど、虫が怖くて苦手な子が少し入ってみたい…という好奇心から見て、触って感じる事が出来た。逆に・臭いが強烈にする・触りたいという声から、生態にずっと触り、弱ってしまう・隙間から脱走してしまう・苦手な人の気持ちも考えよう。と周りの人への配慮を考える活動にも繋がった。

そこから、共存をテーマに触りたい。見るだけにしない?虫も生きてる。昆虫館では、虫の世界に入り込んで見させていただいているという感覚を伝えた。その為に、土を替えたり、エサを準備したり、植物に水をあげたり動植物を大切にすることを育むことができた。